

<うきは市若宮八幡宮のサギのコロニーについて> 松富士将和

9月9日(木) 14:00~15:00 うきは支所に於いて、うきは市教委文化財保護係と筑後支部2名で、吉井若宮八幡宮のサギのコロニーのドローン映像を見ながら今後の対応の打合せを行った。

サギのコロニーは、平成12年頃から営巣が増え、隣接して日岡、月岡古墳があり神社からの要請で、うきは市の教育委員会が平成25~26年に佐賀の業者によるドローン撮影と営巣妨害(テープ掛け)、巣の撤去、猛禽類による駆除などを行ってしばらくは効果があったが、最近になってまた営巣が増えているという現状である。

ドローン調査により、サギの巣は、本殿右側の広場(駐車場)のクスノキに約20座、その奥に25座。北側の木に60座程あり、日野岡古墳の所に16座程が確認された。繁殖しているサギの主体はダイサギで、次いでアオサギ、アマサギがいた。また、1kmほど離れたところに住民不在の民家の林にも10座程が営巣しており、近隣からの苦情で出ているということであった。

神社としては、参拝者への影響や、散策者(池の周辺)のこともあり、サギの完全駆除を望んでおられるが、うきは市としては、1カ所で駆除しても、他所で繁殖すれば同じような苦情が発生するので、どこか人への影響がない所での繁殖が望ましいが、現実的にはそれも難しいと頭を抱えておられた。

筑後支部としては、参拝が多いところについては営巣しないような対策(営巣前に、営巣していた巣や、樹冠周辺に、光るテープや、忌避剤を塗布したテープを掛ける)や、忌避剤の散布、猛禽類の凧を揚げるなどの部分的な対策を行いたいと思っている。

なお、県には、生物多様性から、多様な生き物との共存を呼び掛けており、サギや、カワウの繁殖が各地で増えている現状から、希少種の保護のみならず、普通種の繁殖などにも対策を講じて欲しいと相談している。

これを機会に、県内各地での、サギや、カワウの繁殖調査を行い、その対策を講じて「野鳥も人も地球の仲間」として人と野鳥が共存する社会づくりを目指して欲しいと要望するところである。

*うきは市吉井町若宮八幡宮のサギのコロニードローン撮影写真

8月6日に、柳川市大東エンタープライズによるドローンでの撮影を行った。



①上空全体写真



②吉井若宮八幡本殿宮右側のクスノキ・約 20 座（ダイサギとアオサギ）



③北側日岡古墳の木・約 16 座（ダイサギ）



④北側の木・約 25 座



⑤北側の木・約 60 座

鳥 信

<筑後エリア>

***9月10日 オオヨシキリ他・高良川河口 野田(敦)**

高良川河口の葦にオオヨシキリが2羽飛んで来ました。尾羽の先端が白かったので幼鳥?若鳥かな。葦の茂みや柳の枝に入ったりしながら川沿いに移動し見えなくなりました。この時期にオオヨシキリを見るのは初めてです。

除草中の筑後川河川敷でムクドリの大群、カササギの20羽程の群れ、スズメの群れ、ハクセキレイ、電線に止まったツバメ数羽(遠くを見つめ渡去の日を試案しているかのようでした)、を見ました。鳥の大半は今年生まれの若鳥のようでした。久し振りにカワセミとウグイスにも出会いました。サイクリングロードを覆っていた泥が取り除かれ、歩けるようになっていましたが、風で砂ぼこりが舞いました。

<近隣エリア>

***9月11日 渡り途中のトケン類とヒタキ類・山神ダム 野田(美)**

梢に止まるヒタキ類を探していると、トケンが飛んできて止まりました。さて、識別が・・・と悩んでいると飛び立って、近くの桜に止まりました。大きさなどからツツドリの幼鳥と思いますが、かなり上面の黒色味が強く、俗に「黒いツツドリ」と言われるのでしょうか。

コサメビタキがチョロチョロと飛び回る中、比較的じっとしてくれる個体を見つけ、写真を撮りながら「はて、このコサメビタキは下嘴が黒いな・・・」と思ってよく見なおすとオオルリの雌でした。思い込みはいけませんね。

木の実をくわえたヒヨドリの幼鳥がエノキの枝にとまっていたましたが、写真でよく見るとくわえているのはエノキの実ではないようです。

【観察した鳥】カワウ、ササゴイ、ミサゴ、ツバメ、アオゲラ、ツツドリ、キジバト、リュウキュウサンショウクイ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、コサメビタキ、オオルリ、カワセミ、コゲラ、ハシブトガラス (外来種) ソウシチョウ、コジュケイの17+2種



▲ツツドリ 撮影:野田(美)



▲ツツドリ 撮影：野田（美）



▲オオルリ雌 撮影：野田（美）



▲ヒヨドリ 撮影：野田（美）

<問い合わせに答えて>

*コゲラの種類について教えてください。 石橋(信)

最近コゲラの種類が9種ある事を知りました。

その中にコゲラとキュウシュウコゲラがありました。

私達の筑後支部で観察しているのは、キュウシュウコゲラでしょうか？それとも、両方が混在しているのでしょうか？

混在しているのであれば、見分けるポイントはどこでしょうか？

*回 答

コゲラに限りませんが、鳥の種には、分類上、種の下に亜種を分けて記載する場合があります。

コゲラの学名は日本鳥類目録第7版(2012)では種の学名として *Dendrocopos kizuki* が採用され、種の和名(日本の名前)をコゲラとしています(以下、この種学名の部分は *D. k.* と略します)。

この種コゲラは地方によりやや色合いが異なったりすることから、現在のところ 国内では、石橋さんがおっしゃるように9の亜種(種レベルではありません)に分けられています。

その亜種名と大まかな分布域は、

亜種エゾコゲラ *D. k. seebohmi* (北海道、南千島)

亜種コゲラ* *D. k. nippon* (本州北・中部、佐渡)

亜種ミヤケコゲラ *D. k. matsudairai* (屋久島、伊豆諸島)

亜種シコクコゲラ *D. k. shikokuensis* (本州西部、四国)

亜種ツシマコゲラ *D. k. kotataki* (隠岐、対馬)

亜種キュウシュウコゲラ *D. k. kizuki* (九州)

亜種アマミコゲラ *D. k. amamii* (奄美諸島)

亜種リュウキュウコゲラ *D. k. nigrescens* (沖縄諸島)

亜種オリイコゲラ *D. k. orii* (西表島)

となっています。

コゲラは Temminck (オランダの鳥類・動物学者コンラート・ヤコブ・テミンク) が、長崎に来ていたシーボルトが収集した九州産の個体に基づいて 1835 年(天保6年)に最初は *Picus kizuki* の学名で記載されたもので、*Picus* はアオゲラやキツツキの仲間、*kizuki* は日本語の「木突き」に由来すると思われます。その標本は現在、オランダのライデン博物館に保管されています。

種和名がコゲラで、亜種和名もコゲラという亜種*がいるのは「国内で繁殖している亜種が複数いる場合は、基本的に本州中部で繁殖している亜種の和名には種和名を用いる」というルールがあるからです。

そのため種コゲラの基亜種(その種の亜種が複数ある場合、最初に学会に登録された亜種)は九州産の亜種 *kizuki* ですが、それにはキュウシュウコゲラという亜種和名つけられているのです。

分類学の進展により、例えば遺伝的隔離が進んでいることが明らかになって亜種から種に格上げされることもあるので、同じ地域に複数の亜種がいる場合は亜種を確認しておくことが重要で、記録に留意する必要があります。

例えば、これまでサンショウクイとリュウキュウサンショウクイは、種サンショウクイの下での2つの亜種とされてきましたが、研究が進んで、別種とされることになりました。その場合、これまで「サンショウクイ」と種レベルの名前で記録されてきたものが、どちらの亜種であったのか確認する必要があります。

コゲラについては、九州では亜種キュウシュウコゲラ以外の亜種はこれまで記録されていないので、コゲラと言えば亜種キュウシュウコゲラを意味します。

ただし、コゲラの分類と分布についてはまだ未確定な部分がありますし、亜種間の違いについても微妙ですので、今後の研究が進めば、亜種の取り扱いが変わるかもしれません。

なお、来年の発行に向けて準備が進められている日本鳥類目録第8版ではコゲラの学名は *Yungipicus kizuki* と変更される予定ですが、亜種とその分布域についての扱いはこれまでと変わらないようです。(文責：池長)

*回答を受けて 石橋(信)

自分のコゲラの写真を見ていて、少し模様や色合いが違う様だったので、コゲラに関心がわき、色々調べたのですが、おかげで個体差なのかなと思っています。

お腹の模様や背中の色具合の違い(ISO、露出、シャッター速度の違いはありますが)で、不思議に思い比較したものを添付します。



▲コゲラいろいろ（九州で撮影されたものです） 撮影：石橋(信)